

田舎っぺの「あきらめなつど」

大阪府松原市在住の吉田稔・由美子ご夫妻。
ご家族は、仰さん（中1）と詞さん（小5）
との4人家族。

独身時代は長野県の黒姫高原でペンション
経営をしていた稔さんが、どのように大阪の
由美子さんと出会い結婚に至ったのかをうか
がいました。

「結婚はしたいが」

「稔さんは結婚前、どういう夢を持っていま
したか。」

稔 学生時代から持っていた夢はペンション
経営で、それは人生最大の夢でした。当時長
野のホテルで働いていましたが、その時に付
き合い始めた女性が統一協会の信者で、誘わ
れて自分も統一協会の信仰を持つようになり
ました。

しかしこれで本当に良いのかと悩んでいる
時、妹の友人のクリスチャンに紹介されて教
会に行き、そこで初めて会った牧師に「統一
協会は間違いである」と断言されたその一言
で、私はクリスチャンになりました。

その後、一九八八年33歳の時にペンション
「エルシャダイ」を始めました。それと同時
に結婚したいという思いが与えられ、牧師や

宣教師さんたちの助けをいただいて「お見合
いツアー」をし、富山、群馬、石川、埼玉に
まで出かけて行きました。でもなかなか、ペ
ンションと一緒にやりたいという女性は現れ
ませんでした。

「当時（20年前）由美子さんは何をされてい
ましたか。」

由美子 すでに看護師として働いていまし
た。私が小2の時に、父が宣教師のブルック
先生の集会に初めて行って、その場で救われ
ました。その父に連れられ教会学校に行き、
母も、私たち兄弟2人とおばあちゃんも救わ
れました。それからずっと松原聖書教会（大
阪府）に集っています。

「その当時は、結婚についてどういうふうに
考えていましたか。」

由美子 22才ぐらいの時、付き合っていた人
がいて結婚したい気はありましたが、ノンク
リスチャンだったのでやめました。それは、
両親がクリスチャンでない人とお付き合い
に反対したことと、その方から信仰を拒否さ
れ、彼を選ぶかクリスチャンとしての生活と
両親を選ぶかの二者択一を迫られたからで
す。日常生活の中での様々な宗教行事（偶像
崇拜）との関わりを考えると、自分のことを
かばってくれない未信者の夫では、とうてい
無理だと思いました。

しかし、教会には結婚の対象となる男性が

いなかったもので、結婚については「もういい
や」と思うようになっていました。

働いているのでお金はあるし、自分の好き
なことができ、友だちと自由に旅行できる
ことも楽しかったので、20代後半には結婚な
んて考えられなくなっていました。

思いがけない出会い

「そんな時、私（コール）が開拓伝道してい
た中野キリスト教会のある兄弟と松原聖書教
会の姉妹が結婚することになり、結婚式に出
席するために、稔兄弟をはじめ中野キリスト
教会の兄弟姉妹が松原聖書教会を訪れたんで
したね。」

帰り際に私が「稔兄弟にも誰かいませんか
と軽い気持ちで言ったところ、お父さんから
「うちにも娘がいますよ」という話になった
のでしたね。」

稔 私は田舎から出て来ますから、純粹に
『この話は神さまが働いてくださった』と考
えました。それから彼女のお母さんが、ペン
ションに「娘をスキーに行かせましようか」
という話になりました。（以下略）